

# 提 言 書

令和4年7月27日

甲斐市男女共同参画推進委員会

## はじめに

男女が共に支え合える生活快適都市を推進するためには、男女が互いに個性や能力を認め合い、共同して家庭や地域、職場などあらゆる分野に参画していただける男女共同参画社会を実現することが必要です。

私たちは、令和2年8月に市長から委嘱を受け、本市における男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関する研修や意見交換を重ね、アンケート調査やデートDV講演会といった様々な活動にも取り組んできました。

その2年間の活動の中で、提起された意見を集約し、ここに提言書として提出いたします。

提言書の趣旨をご理解いただき、男女共同参画社会の醸成と甲斐市の「緑と活力あふれる生活快適都市」の実現に向けて参考にしていただけるようお願いいたします。

令和4年7月27日

甲斐市男女共同参画推進委員会  
会長 雨宮 優

## 提 言

### 1 政策・施策形成への女性参画の推進

本市の審議会等における女性委員比率は増加傾向にあるものの、令和3年度は29.0%と「第4次甲斐ヒューマンプラン」の目標である30%を下回っており、政策・方針の場への女性の参画はまだ十分とは言えません。引き続き、関係団体の女性委員や女性管理職の登用率の向上が図れるよう努めてください。

### 2 子育て支援・介護支援環境の整備推進

女性の社会進出を後押しするためには、子育て支援・介護支援の環境整備が重要です。特に、近年では育児・介護休業法が改正されるなど、男性の育児休暇の取得が求められています。市がロールモデルを提示し、職員の育児休暇等の取得について率先して推進し、情報の発信、民間企業への働きかけをお願いします。また、マタニティハラスメントやパタニティハラスメント等といったハラスメントの防止も呼びかけてください。

### 3 DV被害者への支援

自己責任論の広まりや新型コロナウイルス感染症による生活環境の変化によるストレス等からDVの増加・深刻化が懸念されています。また、被害者が自立して生活を送れるようになるまでには、住宅や生活費、就業機会の確保のほか子どもの就学問題等といった多くの課題があります。DV被害者が安心して生活できる精神的かつ経済的自立支援制度を強化してください。

### 4 教育の場における男女共同参画の学びと研修支援

学校は子どもの成長に大きな影響を与える場であることから、生活、学習、進路相談などの分野において、既に形成されたジェンダー観を改善すること、具体的なジェンダー教育案や教材の提示など男女平等の理念に基づき指導をお願いします。また、授業にジェンダー平等の視点が含まれるよう、教師のための男女共同参画研修を行ってください。

### 5 男女共同参画の視点からの防災・減災への取り組みに対する支援

災害時において、『女性の視点』に基づいた取り組みが必要不可欠です。男女それぞれに配慮した支援を行うとともに、特に女性の視点を取り入れた防災訓練等の指導や情報の発信をしてください。

## 第8期甲斐市男女共同参画推進委員会名簿

| 役職   | 氏名      | 推薦団体名   |
|------|---------|---------|
| 委員長  | 雨宮 優    | 自治会連合会  |
| 副委員長 | 小林 正明   | 民生委員    |
|      | 廣瀬 俊江   | 女性団体連絡会 |
| 委員   | 穴水 剛    | 自治会連合会  |
|      | 池田 悠子   | 公募      |
|      | 石原 賢三   | 公募      |
|      | 内松 太一   | 人権擁護委員  |
|      | 長田 ひろ江  | 公募      |
|      | 菊池 永佳   | 公募      |
|      | 齋藤 美子   | 公募      |
|      | 高橋 幸子   | 民生委員    |
|      | 立原 昇    | 自治会連合会  |
|      | 長久保 美代子 | 公募      |
|      | 三井 亮    | 公募      |
|      | 山本 紘治   | 公募      |
|      | 弓田 仁美   | 女性団体連絡会 |